

名張市教育委員会事務の点検・評価報告書

令和 2年 2月

名張市教育委員会

名張市教育委員会事務の点検・評価について

名張市では、総合計画「新・理想郷プラン」に掲げた諸施策を進めるに当たり、「行政評価」により計画の達成度や効率性などの客観的な評価を行いながら、計画目標の達成に向けて効果的・効率的な行政運営を進めています。

名張市教育委員会においては、市が実施する行政評価の結果や施策評価シート等の基礎資料を活用し、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、「名張市教育委員会事務の点検・評価報告書」を作成し、公表することとしています。

教育委員会では、「新・理想郷プラン」に掲げる基本目標のひとつである「豊かな心と健やかな体を育み暮らせるまち」の実現に向けて、第1次基本計画に定める1.生きる力を育む教育の推進、2.生涯学習・生涯スポーツの推進、3.市民文化の創造、の3つの基本政策を構成する①学校教育、②青少年健全育成、③生涯学習、④生涯スポーツ、⑤文化振興の5つの施策を担当しています。

本報告書は、令和元年6月（平成30年度実績）に作成しました施策評価管理シートを基に第1次基本計画の施策指標（目標）及び達成状況や名張市の行政評価委員会による総合評価等の内容を踏まえた再点検を行い、作成しました。

注）進捗率は、施策指標（目標値）に対し、当該年度（実績値）が市総合計画の基本計画策定時（現状値）からどれだけ伸びているか（減っているか）指標の進み具合を下記計算式により数値化したものです。

$$\text{(計算式)} \quad \frac{\text{実績値 (2018 (平成 30) 年度)} - \text{現状値 (2014 (平成 26) 年度)}}{\text{目標値 (2018 (平成 30) 年度)} - \text{現状値 (2014 (平成 26) 年度)}} \times 100$$

令和元年度 教育委員会事務の点検・評価項目

	ページ
< 施策 1 > 学校教育	3
< 施策 2 > 青少年健全育成	6
< 施策 3 > 生涯学習	8
< 施策 4 > 生涯スポーツ	10
< 施策 5 > 文化振興	13

<施策1>

政 策	豊かな心と健やかな体を育み暮らせるまち
基本施策	生きる力を育む教育の推進
施 策	学校教育

1.【基本方針】

- ・夢に向かって主体的に学び続ける子どもの育成を目指して、教育内容の充実を図るとともに、安全で快適な教育環境を整備します。
- ・持続発展可能な社会の実現のため、E S D（持続可能な開発のための教育）の視点を取り入れた、環境教育、国際理解教育、情報教育等の充実を図るとともに、家庭、地域と連携して特色ある学校づくりに取り組みます。
- ・学校、家庭、地域、関係機関等、市民総ぐるみで子どもの育ちを支援し、地域コミュニティづくりの核としての学校づくりを推進します。
- ・小学校教育から中学校教育への円滑な接続等、義務教育9年間を通じて児童生徒の発達に合った学びを実現するため、小中一貫教育の取組を推進します。
- ・特別な支援が必要な子どもが、その能力や可能性を最大限に伸ばす教育を推進するとともに、保護者や関係機関と連携して、途切れのない支援に取り組みます。



2.【主な取組の成果】

- ・名張市立小中学校の規模・配置の適正化後期実施計画（案）の推進に向けて、地域説明会や保護者説明会を開催するとともに、校区再編をスムーズに進めるため校区再編準備協議会を設置し、協議を行いました。
- ・安心・安全な学習環境確保のため、小中学校への空調設備整備に着手し、中学校4校と小学校1校の整備を完了しました。
- ・小中一貫教育の研究推進校であるつつじが丘小学校・南中学校においては、これまでの取組を見直し、小中一貫教育の目的やめざす子ども像、その実現のための具体的な取組を全教職員で再確認しました。他の中学校区においても、担当者会議やブロック別研修会の開催、小中一貫教育アドバイザーの招聘など理解や認識を深める取組を行いました。
- ・コミュニティ・スクールの導入に向けた市の体制づくりを進めるとともに、研究取組校の成果と課題を検証しながら、市内全小中学校への学校運営協議会設置に向けた調査・研究を進めました。
- ・ふるさと学習「なばり学」上巻を活用した授業を小学校1年生から4年生までで開始するとともに、授業で活用する映像コンテンツや教材の充実、ゲストティーチャー研修会を開催しました。また、小学校5年生から中学校3年生までが利用する学習資料集の下巻を刊行しました。
- ・教育センターにおいて開催している子育て支援研修会をテーマ別に年間3回、家庭教育連続講座を年間5回開催しました。

— 施策達成のために取り組んだ主な事務事業 —

No	事務事業名	担当室名	概要及び目的	今後の方向
1	基礎学力向上支援事業	学校教育室	外部から専門家をアドバイザーとして招聘し、指導者の研究研修に活かし、指導改善による学力向上、新体力テストの実施により、児童生徒の強み・弱みを把握し、体力向上の取組を推進する。	継続 (現行)
2	生徒指導充実推進事業	学校教育室	いじめ等の早期発見、学級状態把握のため市内全児童生徒にQ-U調査を実施し、改善の取組実施により、学校に対する満足度を高める。	継続 (改善)
3	小学校ALT派遣事業	学校教育室	小学校専属の外国語指導助手を派遣し、コミュニケーション能力の育成及び国際理解教育の充実を図る。	継続 (拡大)
4	教育研究事業	教育センター	教育課題に迅速かつ適切に対応していくため、質の高い教育を実践できる教職員の育成、学校・家庭の支援を通じて、教育力の向上を目指す。	継続 (現行)
5	小中一貫教育推進事業	学校教育室	小学校6年間、中学校3年間という括りを取り払い、様々な教育課題の解決を目指して、子どもの育ちに合った9年間の一貫した、系統性・連続性のある教育の在り方について調査研究を行う。	継続 (現行)
6	ふるさと学習「なばり学」創設事業	学校教育室	名張市の自然や歴史、産業・伝統・文化、人から生き方を学ぶことで、ふるさとへの愛着とそれらを引き継いでいく一人であるという意識の醸成を図る。	事業 完了
7	コミュニティ・スクール推進事業	学校教育室	地域とともにある学校づくりのため、学校運営協議会の設置、充実に向けた取組を推進し、学校と家庭・地域の組織的な連携・協働体制を確立する。	継続 (拡大)
8	ばりっ子ピカピカ小1学級体験プロジェクト	学校教育室	就学前から小学校へのスムーズな接続を実現させるため、退職教員の「ピカ1先生」が幼稚園・保育所等を巡回する。	継続 (現行)
9	小中学校空調設備整備事業	教育総務室	児童生徒の学校生活での安全・安心な学習環境を確保するため教室に空調設備を整備する。	継続 (現行)

3. 【施策指標（目標）の進捗及び達成状況】

施策指標（目標）の内容（単位）		現状値	2016	2017	2018	進捗率
		(H26)	(H28)	(H29)	(H30)	
小中学校の教育環境に満足している市民の割合（％）	目標	—	—	—	65.0	61.4%
	成果	59.3	56.2	62.4	62.8	
不登校児童生徒の割合（％）	目標	—	—	—	1.10	100.0%
	成果	1.27	0.84	0.97	0.96	
通常学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒のうち、個別の教育計画を保護者の同意のもとに作成している割合（小学校）（％）	目標	—	—	—	28.0	100.0%
	成果	14.3	20.4	25.0	55.1	
通常学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒のうち、個別の教育計画を保護者の同意のもとに作成している割合（中学校）（％）	目標	—	—	—	6.0	100.0%
	成果	0.0	2.2	2.3	8.4	

4. 【成果を踏まえた課題や現状】

- ・名張市のめざすコミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育に対する理解を促し、小中学校の教職員が校種を越えて義務教育9年間の「学び」と「育ち」に係わるという意識を高める必要があります。
- ・コミュニティ・スクールの未設置校への設置及び設置校の取組の充実を目指して支援を推進する必要があります。
- ・一つの小学校に多数の幼稚園・保育所（園）・認定こども園から就学する状況を踏まえ、小学校への円滑な接続を行う必要があります。
- ・ふるさと学習「なばり学」は、令和元年度より、小学校1～4年生は本格実施、小学校5年生～中学校3年生までは下巻を使用しての試行実施となります。
- ・建築後相当年数を経過している多くの施設の老朽化対策を計画的に進める必要があります。
- ・子育て支援研修、家庭教育講座を今後も広めていくために、他部局や他関係団体とも連携を進めていく必要があります。また、家庭教育講座のスタッフの力量アップを図っていく必要があります。

5. 【行政評価委員会による総合評価】

- ・空調設備整備やトイレの洋式化、老朽化対策などのハード面の教育環境の向上に加え、小中一貫教育の推進や保護者の負担軽減と給食を通じた食育推進を図るため、中学校給食の導入に向けた取組を進めること。

6. 【今後の方向性】

- ・学校の規模・配置の適正化において設置する（仮称）新桔梗が丘中学校の円滑な開校に向けて、必要な施設整備を行うとともに準備協議会での関係者間の協議を進め、随時、保護者や地域住民にも情報を伝えます。
- ・安全で快適な教育環境を整えるため、学校の空調設備の整備、老朽化対策やユニバーサルデザインへの対応等の施設整備を進めます。
- ・市内全ての中学校区への小中一貫教育の導入準備を進めるとともに、つつじが丘小学校・南中学校の研究・検証結果を各中学校区における小中一貫教育の導入に活かします。
- ・市内全小中学校の学校運営協議会設置に向けて、準備を進めるとともに、学校運営協議会設置校の取組がさらに充実するように、引き続き支援を進めます。
- ・全ての幼稚園・保育所（園）・認定こども園と小学校が連携を図り、円滑な接続を行うために、幼児教育アドバイザーやピカ1先生を派遣し、小学校入学に対する期待感と安心感を高めるよう取組を進めます。
- ・ふるさと学習「なばり学」において、ゲストティーチャーと映像コンテンツを授業で活用してもらうための工夫や手だてを講じていきます。各学校でのなばり学の取組や成果物を教育センターに掲示し、実践例を発信していきます。
- ・子育て支援研修会、家庭教育講座に多くの方が参加頂けるよう関係機関等に効果的に案内を行います。また、スタッフの力量を高めるために、家庭教育に関する講座や県主催の養成講座への参加を積極的に呼びかけます。

<施策2>

政 策 豊かな心と健やかな体を育み暮らせるまち
 基本施策 生きる力を育む教育の推進
 施 策 青少年健全育成

1. 【基本方針】

- ・次世代を担う青少年は、かけがえの無い存在であり、心身ともに健やかに成長することは、市民一人ひとりの願いです。青少年を取り巻く環境が目まぐるしく変化するなかで、心身ともに健全にたくましく成長していけるよう、学校・家庭・地域等が連携して青少年の健全育成に取り組みます。



2. 【主な取組の成果】

- ・子どもたちが地域社会の中で、心豊かに育まれる環境づくりを推進する放課後子ども教室を地域づくり組織等の協力のもと、市内6地区8小学校区で実施しました。また、新規教室の立ち上げに向けて、未実施の地域づくり組織等の関係者へ事業説明を行いました。
- ・子どもの体験活動などへのサポートや支援を行う青少年ボランティアであるジュニアリーダー養成講座（全2回）を開催し、22名が修了しました。また、養成講座を修了した者の多くが所属し、活動している名張 Kids サポータークラブ（ジュニアリーダークラブ）が継続的に活動できるよう技術の向上や、活動機会の提供等の支援を行いました。
- ・地域ぐるみで子どもを守る取組として、子どもを守る家事業の普及に努めました（協力者件数 2, 015件）。また、非行や犯罪から子どもたちを守るため「名張少年サポートふれあい隊」による夜間パトロール等を行いました（年間延べ参加者数 921名）。

— 施策達成のために取り組んだ主な事務事業 —

No	事務事業名	担当室名	概要及び目的	今後の方向
1	放課後子ども支援事業	文化生涯学習室	安全・安心な子どもの活動拠点（居場所）を設け、地域の参画を得て、子どもたちと地域住民の交流活動等の取組を推進する。	継続（現行）
2	青少年健全育成事業	文化生涯学習室	関係機関との連携や市民ボランティアの協力を得て、非行防止、環境浄化活動により安心安全な環境づくりに取り組み、青少年の健全育成を図る。	継続（現行）
3	成人式行事経費	文化生涯学習室	式典開催により、新成人に大人としての自覚を促し、責任ある行動、社会参画の意識の醸成を図る。	継続（現行）

3. 【施策指標（目標）の進捗及び達成状況】

施策指標（目標）の内容（単位）		現状値 (H26)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	進捗率
青少年の健全な育成に向けた取組が行われていると感じる市民の割合（％）	目標	—	—	—	50.0	
	成果	42.7	45.5	41.5	44.4	23.3%
ぐ犯・不良行為少年数（人）	目標	—	—	—	210	
	成果	245	129	224	163	100.0%
放課後子ども教室設置数（箇所）	目標	—	—	—	9	
	成果	6	6	6	6	0.0%

4. 【成果を踏まえた課題や現状】

- ・放課後子ども教室については、地域づくり組織への委託により実施しているため、地域づくり組織へ事業説明を行い理解を得ながら未実施地域での新規教室立ち上げを目指していますが、地域でのニーズやコーディネーター、ボランティアの選定といった課題があり全地域での教室立ち上げには至っていません。また、放課後児童クラブとの一体的な取組についても検討していく必要があります。
- ・青少年ボランティアや名張 Kids サポータークラブが継続的に活動できるよう、ジュニアリーダーとしての技術の向上や、活動機会の提供等を引き続き支援する必要があります。
- ・青少年の非行件数は、ここ数年減少傾向にあります。不審者情報の増加や全国的に青少年が被害者となる事件が発生しているなか、引き続き警察や学校、地域など関係機関・団体と連携を密にし、子どもたちを見守る体制をいっそう強化していく必要があります。

5. 【行政評価委員会による総合評価】

- ・放課後子ども教室について、放課後児童クラブとの連携及び一体的な取組を検討するなどし、未実施地域での立ち上げに向け、取組を進めること。

6. 【今後の方向性】

- ・放課後子ども教室については、未実施地域での事業着手に向けて積極的に支援するとともに、子どもたちが放課後等を安全・安心に過ごし、より多様な体験活動を行うことができるよう推進していきます。
- ・ジュニアリーダー養成講座の修了者が継続的に社会参加できるように、名張 Kids サポータークラブへの活動機会の提供や、技術向上を目的とした研修会を開催するなどの支援を行います。
- ・子どもを守る家事業の普及による不審者対策や、「名張少年サポートふれあい隊」による夜間パトロール等を引き続き行い、地域ぐるみで非行や犯罪から子どもを守る体制の充実・強化に努めます。また、ふれあい隊・市青少年補導センター・警察・学校等の関係機関・団体での情報共有など、さらなる連携を深めながら子どもを守る体制を強化します。

<施策3>

政 策 豊かな心と健やかな体を育み暮らせるまち
基本施策 生涯学習・生涯スポーツの推進
施 策 生涯学習

1. 【基本方針】

- ・市民一人ひとりが自らの資質の向上や学習を通して多様な交流を広げ、心かよう地域社会の進展のために、生涯学習のまちづくりを進めます。
- ・生涯学習活動を進めるための情報提供や、学び続けることのできる環境の整備を進めるとともに、身に付けた知識や経験を社会で生かすことができる仕組みづくりに取り組みます。



2. 【主な取組の成果】

- ・各地域の市民センターが生涯学習活動の拠点としての役割を果たせるよう、市民センター職員対象に生涯学習研修会を実施し、職員のスキルアップに努めました。また、生涯学習講座として「なばりカレッジ」を実施し、全7講座、76人が受講しました。
- ・皇學館大学ふるさと講座（年2回実施）に178名が受講するなど高等教育機関との連携等に取り組み公開講座等、生涯学習機能の向上につなげました。
- ・限られた財源を有効に活用し、図書館資料を通じて市民が必要とする情報を提供するとともに、カウンター業務等を委託している民間事業者と協働して図書館サービスの向上を図り、市民の多様な学習意欲に応えられる図書館サービスを展開しました。
- ・市立図書館の市民一人当たりの貸出冊数は微減傾向が続いていますが、時期によっては開館前から50人以上並ぶなど、多くの市民に利用いただいています。図書についても、蔵書バランスに配慮した新刊図書の購入や、県内図書館との連携による相互貸借等により、市民が必要とする図書資料の確保と提供に努めました。

— 施策達成のために取り組んだ主な事務事業 —

No	事務事業名	担当室名	概要及び目的	今後の方向
1	学校支援地域本部事業	文化生涯学習室	地域住民が学校を支援する体制を構築することにより、学力の定着・向上を図るとともに地域ぐるみで子どもを育てる環境を整備し、地域の活性化を図る。	継続 (現行)
2	生涯学習推進事業	文化生涯学習室	名張に愛着を持つ人材の育成や家庭教育の充実など、地域課題等について学習機会を提供し、市民センター活動や地域組織活動の充実を図る。	継続 (現行)
3	図書館運営費	図書館	資料（書籍）を収集・整理、保存し、市民の利用に供して学習機会の保障と文化の発展に寄与する。	継続 (拡大)

3. 【施策指標（目標）の進捗及び達成状況】

施策指標（目標）の内容（単位）		現状値 (H26)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	進捗率
目的を持って生涯学習に取り組んでいる市民の割合 (%)	目標	—	—	—	46.0	0.0%
	成果	44.5	45.1	42.5	41.6	
市民センター等における家庭教育講座の講座数（講座） 【延べ数】	目標	—	—	—	90	86.7%
	成果	75	84	85	88	
市民1人あたりの年間図書貸出冊数（冊）	目標	—	—	—	7.0	0.0%
	成果	6.7	6.5	6.4	6.2	

4. 【成果を踏まえた課題や現状】

- ・各地域の市民センターを身近な生涯学習の場としての役割を果たし、市民が主体的に生涯学習活動が行えるよう、学習ニーズの把握や情報の収集・発信を幅広く行うとともに、生涯学習の推進、地域課題の解決に向けた取り組みが必要です。あわせて、皇學館大学をはじめとする高等教育機関との連携をさらに強化して行くことも必要です。
- ・図書館の貸出冊数は年々減少傾向にありますが、来館者数自体は大きな変化は見受けられません。これは図書館の利用法として、従来主流であった図書資料を閲覧し、必要な図書を借りる、あるいは、図書館にある資料を活用して学習を行うといった利用方法だけでなく、新聞や雑誌、AV資料などを閲覧しに来館される高齢者の増加や、従来は学生に限られていた図書資料を利用しない学習活動を行う成人の増加など、多様な利用方法が定着していたことによるものと推測され、こうした利用者ニーズの変化を把握するとともに、それらに応えられる環境づくりが必要となってきています。

5. 【行政評価委員会による総合評価】

- ・市民センターが各地域の生涯学習の場としての役割を果たせるよう生涯学習に関する情報提供・発信に努めるとともに、図書館においても多様なニーズに対応するなど、生涯学習拠点の機能向上を図ること。

6. 【今後の方向性】

- ・市民が生涯にわたって元気に、充実した生活を送ることができ、学びの成果を生かした地域づくりにつなげるため、各地域の市民センターが生涯学習の場として役割を果たせるよう「名張市の地域における生涯学習推進に関する指針」に基づき支援に取り組めます。また、高等教育機関との連携に取り組み、生涯学習機能の向上につなげます。
- ・市民が必要とする図書資料の確保と提供に努めるとともに、利用者の声を積極的に聴取するなどし、利用者ニーズの的確な把握に努め、多様なニーズに応え得る図書サービスの提供を通じて、生涯学習拠点としての機能の向上を図っていきます。

<施策4>

政 策	豊かな心と健やかな体を育み暮らせるまち
基本施策	生涯学習・生涯スポーツの推進
施 策	生涯スポーツ

1. 【基本方針】

- ・市民の誰もが、生涯を通して自主的にライフスタイルに応じたスポーツ・レクリエーション活動に親しみ、健康で、はつらつとした暮らしを営むことができる環境をつくるため、スポーツ関係団体や地域との連携を密にし、生涯スポーツ社会の実現に向けて取り組みます。
- ・市民が気軽にスポーツ・レクリエーション活動に取り組むことができるよう、ニュースポーツの普及やイベントの開催、スポーツ・レクリエーション施設の整備について計画的に取り組めます。



2. 【主な取組の成果】

- ・総合型地域スポーツクラブを新たに1団体認定し、市民がより身近に、継続したスポーツに親しめる環境整備を進めました。
- ・体育健康フェスタのスポーツ大賞等表彰式をより市民の方が集まる「とれたて！なばり2018」に参画することとし、体育の日には多くの協会の協力のもと554名が参加する体験会を実施しました。
- ・委託組織の特性を生かした運営や参加者の利便性の向上により、名張ひなち湖紅葉マラソン大会参加者は599人（前年比9.9%増）、青蓮寺湖駅伝参加90チーム820人（前年比9.3%増）など参加者増加によるスポーツ活動の推進を図りました。
- ・三重とこわか国体及び三重とこわか大会（全国障害者スポーツ大会）に向けて、三重県、関係機関や団体等と連携し、開催に向けた準備事業を進めました。広報活動としては、体育健康フェスタやとれたて！なばり、教育フォーラムなどのイベントにおいて、ホッケー・弓道の各体験コーナー及びその他名張市で開催する国体競技に関する啓発コーナーを開設し、市民への普及啓発に取り組みました。更に地域住民や関係機関と協議を重ね、百合が丘地区内にホッケー場（日本ホッケー協会公認）の建設に着手しました。
- ・体育施設については、スポーツを通じた市民の交流拠点として、また誰もが安心してスポーツに親しめる環境を整えるため、市民陸上競技場の夜間照明の不具合改修と三重県産木材を活用したスタンドベンチの整備を行い、施設利用者のみならず来場者の快適性及び利便性の向上を図りました。

— 施策達成のために取り組んだ主な事務事業 —

No	事務事業名	担当室名	概要及び目的	今後の方向
1	スポーツ活動振興費	市民スポーツ室	市民の健康づくりの意識高揚、体力向上、健康の保持・増進を図る。	継続 (改善)
2	三重国体準備事業	国体推進室	令和3年に三重県で開催される三重とこわか国体・三重とこわか大会に向け、競技開催並びに来場等に関する事前準備を実施する。	継続 (拡大)
3	総合型地域スポーツクラブ創設支援事業	市民スポーツ室	地域におけるスポーツ活動の拠点並びに地域交流の場を提供し、積極的な地域スポーツ振興を図る。	継続 (改善)
4	市民陸上競技場改修事業	市民スポーツ室	利用者ニーズに適応した施設への改修により、生涯スポーツの振興や競技力向上を図る。	事業 完了
5	ホッケー場建設事業	国体推進室	令和3年のとこわか国体において開催するホッケー競技の会場整備とともに「ホッケーのまちなばり」を目指す。	継続 (拡大)
6	武道交流館いきいき管理費	市民スポーツ室	武道関係者、市民の心身の鍛錬・競技力向上や、スポーツ活動等を通じてコミュニティーの醸成を図る。	継続 (現行)
7	体育施設管理費	市民スポーツ室	総合体育館等体育施設の円滑な運営と施設の安全管理により、利用者の適切なサービス提供を行う。	継続 (現行)
8	保健体育総務一般経費	市民スポーツ室	スポーツ・レクリエーション活動の普及と、円滑な運営及び市民の健康増進を図る。	継続 (改善)

3. 【施策指標（目標）の進捗及び達成状況】

施策指標（目標）の内容（単位）		現状値	2016	2017	2018	進捗率
		(H26)	(H28)	(H29)	(H30)	
週に1回以上スポーツに親しんでいる市民の割合（％）	目標	—	—	—	43.0	0.0%
	成果	41.5	37.8	43.8	39.2	
市民1人あたりの年間体育施設利用回数（回）	目標	—	—	—	5.0	33.3%
	成果	4.4	4.5	4.8	4.6	
総合型地域スポーツクラブの認定団体数（団体）	目標	—	—	—	5	66.7%
	成果	2	3	4	4	

4. 【成果を踏まえた課題や現状】

- ・ 体育健康フェスタについて、スポーツ大賞等の表彰式といった一部事業を、より多くの集客があるとれたて！なばりでの顕彰へ移行しましたが、スポーツ体験に関しても、とれたて！なばりにおいて実施するなど見直しが必要です。
- ・ 体育施設の維持管理を行う中で、名張中央公園一帯が、避難所として指定されており、名張市民のみならず大規模災害時には、伊勢湾岸等からの避難者受入も必要となることから、三重とこわか国体開催も見据え、必要な財源を確保しながら、早急に対応検討を進めていく必要があります。
- ・ 三重とこわか国体の開催に向けて、推進組織を整備するとともに、市内開催競技の

市民への普及啓発の更なる強化に取り組む必要があります。

5. 【行政評価委員会による総合評価】

- ・2020年の東京オリンピック・パラリンピックや2021年の三重とこわか国体・とこわか大会の開催など、スポーツに関する関心が高まっている中、名張ケンコー！マイレージなど健康づくり施策と連携しながら、スポーツに親しめる環境作りに取り組むこと。

6. 【今後の方向性】

- ・総合型地域スポーツクラブや各種団体等との連携を図りながら、市民がスポーツに親しめる環境づくりに取り組みます。また、日常生活にスポーツを取り入れ、継続して活動できる環境づくりに取り組みます。
- ・例年開催しているスポーツ関連行事のうち、体育健康フェスタに関して、福祉子ども部と連携しながら、実施内容も含めた見直しに取り組みます。また、その他のスポーツ関連行事についても、「名張ケンコー！マイレージポイント」の活用等を通じて、市民がスポーツに触れる機会の充実に取り組みます。
- ・障害のある、ないを問わず、全ての市民がスポーツに親しめる機会を提供するとともに、障害者スポーツ競技を普及し、技術力向上を目指します。
- ・体育施設については、市総合体育館が避難所として指定されていることから、避難者の快適性向上を図るため、三重とこわか国体開催も見据えながら、トイレ等の施設改修を行います。また、その他の体育施設においても、利用者の安全確保を第一に考え、引き続き適切な維持管理に努めながら、誰もが安心してスポーツに親しめる環境づくりに努めます。
- ・三重とこわか国体の開催に向けて、推進組織を整備するとともに、市内開催競技の市民への普及啓発の更なる強化に取り組みます。

<施策5>

政 策 豊かな心と健やかな体を育み暮らせるまち
基本施策 市民文化の創造
施 策 文化振興

1. 【基本方針】

- ・文化遺産や地域資源を市民共有の財産として大切に保護し、次世代に継承します。
- ・名張らしさのあふれる魅力ある市民文化を育み、豊かな心と文化の息づくまちを目指します。
- ・多様な文化資源を活用して、郷土に誇りと愛着を感じられるふるさとづくりを創造します。



2. 【主な取組の成果】

- ・郷土資料館では、常設展示に加え、企画展の年6回開催、館外においても小学校や地域に出張するなど名張の歴史や文化等の魅力の発信に努めました。また、資料館の更なる利活用のため、名張市出身の著名人を顕彰する展示室を新たに整備しました。
- ・観阿弥創座の地 名張で能楽のふるさとづくりの取組として、観阿弥祭・名張薪能を開催しました。また、市民団体や名張市観阿弥顕彰会、美旗まちづくり協議会と協働のもと名張子ども伝統芸能祭りや子ども狂言支援、関連イベントを実施するなど名張の特色ある文化を育む事業を展開しました。
- ・美術展覧会では、高校生の出展料を減免するなど応募数の増加に向けた工夫も実施し、絵画・書道・写真・美術工芸の4部門で149点の出品がありました。また、邦楽や舞踊、狂言などの伝統芸能の発表の場である市民文化祭や多彩な行事の開催により、市民が身近なところで芸術文化に親しむ機会を提供し、名張市の文化の発信と市民文化の向上を図りました。
- ・ads ホールは市民の芸術活動を支える拠点施設であり、出演団体や鑑賞団体と連携した企画や情報発信等により、176件で34,873人の利用がありました。施設利用による舞台芸術などの鑑賞を通じて、市民文化の向上と芸術文化に触れる機会の充実に努めました。

— 施策達成のために取り組んだ主な事務事業 —

No	事務事業名	担当室名	概要及び目的	今後の方向
1	ふるさと能文化振興事業	文化生涯学習室	「能楽のふるさとづくり」を目指して、伝統文化の伝承・発展や市民の充実した文化活動ができるよう支援を行う。	継続 (改善)
2	郷土資料館木質化事業	文化生涯学習室	文化、観光、地域活性化、郷土愛醸成など多方面から郷土資料館の利活用に繋げるため、市出身の著名人を顕彰する展示室を整備する。	事業完了
3	青少年センター管理費	文化生涯学習室	市民の芸術文化活動を支える拠点施設の青少年センター（ads ホール）の適切な管理運営を行う。	継続 (現行)
4	文化財保護費	文化生涯学習室	文化財指定や指定文化財の維持管理を行い、指定文化財を良好な形で後世に伝えるとともに、地域のシンボルとして活用を図る。	継続 (現行)
5	文化振興費	文化生涯学習室	市民文化祭及び市美術展覧会を開催し、創作活動の発表及び鑑賞の機会を提供し、文化の発信と市民文化の向上を図る。	継続 (現行)

3. 【施策指標（目標）の進捗及び達成状況】

施策指標（目標）の内容（単位）		現状値 (H26)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	進捗率
市民による自主的な文化芸術活動が活発に行われていることで、身近に文化や芸術に接する機会があると感じている市民の割合（％）	目標	—	—	—	33.0	100.0%
	成果	30.9	40.0	44.0	42.7	
青少年センター、名張藤堂家邸跡、夏見廃寺展示館、郷土資料館の入場利用者数 (人【延べ数】)	目標	—	—	—	368,000	100.0%
	成果	287,792	328,624	367,771	409,317	
美術展覧会出展数（点【延べ数】）	目標	—	—	—	2,100	100.0%
	成果	1,420	1,831	2,012	2,215	

4. 【成果を踏まえた課題や現状】

- ・文化資源の活用面については、年に複数回若しくは昨年度と今年度等、特に小学校の学級単位との交流が増加しています。反復し学ぶこと、また、学年に応じた内容にするなど、活用回数のもとより効果的な学習を行いたいと考えています。
- ・観阿弥顕彰会の会員が減っており、普及活動を行うと共に能楽振興を図る必要があります。
- ・ads ホールの充実した施設を多くの方にご利用いただくとともに、色々なジャンルの事業を計画し、文化振興の拠点として事業展開を進めています。

5. 【行政評価委員会による総合評価】

- ・引き続き、第2次基本計画に掲げる目標達成に向け、取組を進めること。

6. 【今後の方向性】

- ・郷土資料館の来館者は、依然3,000人弱と決して多くはない状況です。市の中型スクールバス2台の活用はもちろんのこと、展示の充実、広報の強化等を継続して行います。
- ・観阿弥顕彰会、美旗まちづくり協議会や地元と協力し、『観阿弥祭』を開催。能楽のふるさとづくりを推進するとともに、関係者との交流を図ることで、能楽振興と次世代への継承に努めます。また、令和元年度には観阿弥顕彰会創立50周年を節目として、能楽鑑賞が堪能できる『名張薪能』を開催しました。恒例となる『名張子ども伝統芸能祭り』で日頃の練習の成果を披露するとともに、同じように伝統文化に取り組んでいる団体とも交流することで、今後ますます伝統芸能に対する意識の向上を図ります。
- ・『市展』への高校生の出品も年々増えつつあり、作品出品を依頼すると共に、一般の方々の出展も促し、市民の芸術文化を育みます。
- ・a d sホールにおいては、文化活動の発表の場を提供し、芸術文化の拠点として活気ある施設になるよう、文化向上に努めます。